

平成28年 熊本地震  
復旧支援活動記録



<活動期間>平成28年5月11日～5月24日



# 熊本地震災害復旧支援活動

## 5月11日(水)出発!!

おまかせ  
お任せへ  
只今お名前を代筆  
おもてなしします  
皆様が喜んで下さる  
お詫びです  
運命は動き Yoshida

2016年5月11日  
会長 西脇



全社・各店からの精銳チームが支援活動をさせて頂きます



西の丸グループ

# 5月12日(木)第1報

雲一つない快晴に恵まれ、西の丸グループ一行は朝7時半に宿を出発し、西原村のボランティアセンターの清水様(先の宮城県亘理町でも縁があったコーディネイター)と合流して、初日の作業現場に到着。清水さんから作業説明を受けた後、大震災後に亡くなられた方に対し、一同は黙祷を捧げた。



すでに全壊された家屋は重機で解体されているが、現地の処理場は、とても細かく分別しないと受け取って頂けない。

今日の作業は、そのガレキを地中からも掘り出し、分別してトラックに積み込み処理場に搬出する作業であり、一行20名が同じ作業現場で黙々と汗を流す。

一行への同行を快諾された元・日向副市長の小林様も今朝から泥だらけの作業を懸命にされています。



# 5月12日(木)第2報

雲一つ無い快晴、炎天下の元、黙々と続けるガラクタ分別撤去作業!!明日も、ここでの作業です!  
車の中が、被災者ご夫妻の住まいとなっている。  
『明日も、ぜひ我が家に!!』と頼まれ「させて頂きます!」が、  
唯一の「お見舞い!」となる。普通に生かされることが、いかに  
有り難いことか!汗にまみれて頑張る仲間達に、自然が授ける  
すごい教訓である。



# 5月13日(金)第1報

本日の第一報!「宿を7時半に出発して、昨日と同じ全壊の家屋現場で解体後のがれき分別、2台のトラックとダンプをフル稼働ピストンして、処理場に運びます。

現地処理場はとても、細かく分別しないと、受け付けてくれません。今日は、調達した「手熊手」もフル稼働します。

昨日の一点の雲もない快晴から、今日は雲が多く、熱射は遮られ、その分、作業がはかどります。

一行全員、皆様の代表らしく、力の限り頑張ります。



# 5月13日(金)第2報

2日目も、全員で頑張りました。

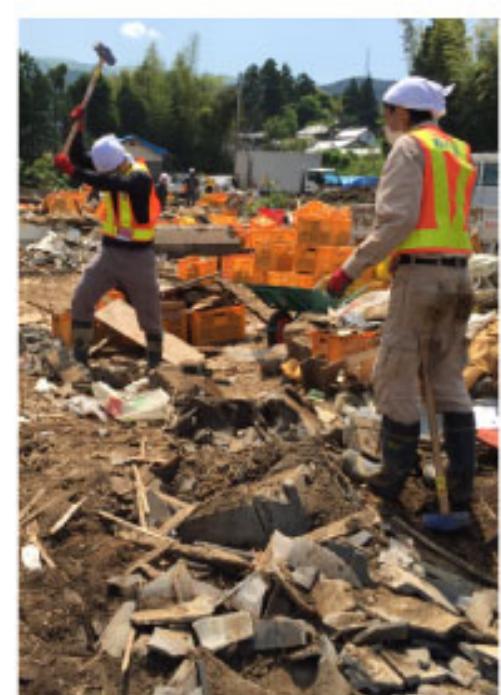
第一日目と同じ被災者宅の倒壊家屋解体後のがれき、ごみの分別から処理場への搬出作業をさせて頂きました。

被災されたご夫妻は精神的、肉体的にも疲れ果てたはずなのに、我々と一緒に、懸命に作業をされていました。

昼頃、共同通信社のカメラマンが来て、亡くなられた方の日記帳を撮影していましたが、取材中の奥様の目から、止めどもなく涙があふれています。隣の方も車中の生活でした。

小さい子供さんは、夜中の1時過ぎ「震度7の本震」以来その時間になると恐がって、「絶対、眠らない！」そうです。

「震度7」は、今なお、恐怖の真っ直中です。私は、カメラマンに対し、「カメラに写らない大切なものの（心）をおさめて下さい！」と、こつそり注文致しました。



# 5月14日(土)第1報

支援活動、第3回。

今日は昨日と打って変わって、無風で快晴！

熊本市内は、最高28度になるらしい。初日から進めた被災者宅の作業は、大方終わり、大半は、隣りの被災者宅の倒壊家屋解体で出た、大中小のがれきや、ごみを分別して、処理場に運ぶ。

ダンプの「坂本君」はダンプ故に、助手席には誰も居ない！真昼の炎天下に、誰もが、只ひたすら黙々と頑張って呉れる。

これらも、みんな、ホールに残って、懸命な接客をして下さる皆様のおかげです。

激励の「寄せ書き」を届けて下さり、ありがとう！

私達も、皆様に負けじと、精一杯頑張ります。



# 5月14日(土) 第2報

日陰無い快晴、炎天下の午後。「10分間休憩!」の合図の下に、一同は腰を下ろす。

倒壊を免れた家の屋根は、至る所にブルーのシートが目立つ。そこに、五月の空に泳ぐ「鯉のぼり」が、あたかも、自然に、さも何もなかったかのように、空から下界を眺めている。

一行に一陣の風が吹いてくれた。  
静かに垂れていた「五月の男」が  
大空に跳ね上がった。



# 5月15日(日)第1報

宿の駐車場に集合して、出発前のラジオ体操をやった。改めて、節々の痛さが判る。解説付きの先導は古川さん。今日は曇り空で、作業が捗りそうだ。

全壊家屋を仕上げて、隣りの家屋に集中します。



明日は活動が中止になるはずの雨で、我々も「体力補強」の休養休日にします。

数日間を共にした車生活を続けておられる被災されたご夫妻(大久保様)に、ゆっくり温泉に入って頂き、一泊二食を贈ります。

お二人の喜ばれるお姿が、目に浮かびます。



休日をまえに、力の限り、頑張ります。



# 5月15日(日)第2報

今日は朝から曇り空で、加えて、明日は100%の雨の為、休養日とあって、余力を振り絞って、被災された方達が目を丸める程の凄い活動をしてくれました。ボランティアセンターの「終了!!」は3時半だが、今日は特に5時までさせて頂きました。

初日からの大久保様宅から川元様宅の倒壊家屋の残骸は跡形もない。そんな空虚が、双方に複雑な影を落としている。今、宿への帰路、作業の終わりを待っていたかのように、雨が降って來た。

一泊二日に招待させて頂いた、車生活のご夫妻も一緒です。  
仲間達と共に、温泉につかって、ゆっくりと疲れを癒やして頂きます。  
今夜はご夫妻と夕食も共にさせて頂きます。



# 支援活動 感想文

## 復旧支援活動に参加した川南店の鬼塚スタッフより

西谷会長、社長様

5月11日より5月16日まで、熊本支援活動に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

初めての支援活動で戸惑いもありましたが、会長、社長はじめ西の丸の精銳部隊の皆様のおかげで、支援活動に参加できた事をとても光栄におもいます。

被災された方々の心情は図りしれないほど深く、悲しみ、お辛い事と現地に行き感じる事ができました。

宮崎にいたら被災された方の本当の気持ちの半分も理解できていなかったかもしれません。

私は16日で 宮崎に帰ってまいりましたが、今度は支援活動に行った者の使命として被災された皆様のお気持ちや被災地の現状を代弁していきます。

今回は誠に貴重な体験をさせて頂きました。 ありがとうございます。  
会長、社長の優しいお心遣いに、いつも感謝しております。  
ありがとうございました。

まだまだ暑いが続くとおもいます。お身体には充分お気をつけて、支援活動を行って下さいませ。

5日間、誠にありがとうございました。



川南店 鬼塚由加里

# 5月17日(火)第1報

昨日の雨がウソのように今朝は快晴でグリーンロード南阿蘇一帯の木々は昨日の雨に洗われ、吸い込まれるような「新緑」を魅せてくれます。昼間はかなり猛暑にやられそうだが、4名の新鋭に入れ代った編成第2班の活動が今日から始まる。



今日も張り切って支援活動をさせて頂きます。  
皆さまからの激励の寄せ書きに感謝します。



## 本日よりの精鋭支援活動者

(◎は、新鋭参加者)



# 5月17日(火) 第2報

今朝からの活動は2軒目の家屋で、ほぼ完了します。

今日は、被災された方の娘さんが、在りし日の思い出を沢山話されていた。

午後は、都甲、渡辺の女性2名と米国ユタからの平良郷君の3名は、初日に活動をさせて頂いた家屋の(大久保様宅)奥様が、経営される美容室の片付け応援に向かい、

他の一一行は、2軒目の家屋(川本様宅)の片付けに集中しました。

完璧な完了に向けて、休日休養後の余力を集中致します。



# 5月18日(水)第1報

今朝も、阿蘇南盆地は快晴で無風!三軒目の一連の作業を17名が集中する。

部落一帯では、かなり西の丸ベスト軍団の活躍が話題となっているみたいです。

周辺、倒壊家屋の被災された方々から「是非!!」の言葉も、掛けられる。

昨日同様、被災された美容室の片付けに3名が行って、頑張っています。



# 5月18日(水) 第2報

今朝から始めた三軒目の作業は、ほぼ午前中に完了して午後から直ぐ隣りの4軒目に移った。此処は、全壊に近い倉庫をユンボとハンマーで解体しながら、その残骸を処理場にピストン搬送する。

二度程の小休憩を挟んだら、5時前になっていた。大久保様が経営される美容室の支援ぶりは、「震災以前よりキレイになりました！」と、最高の感謝を頂きました。「明日から開業出来るんです！」と、ご主人が目を丸くされました。

こんな言葉が、我々にも、炎天下の疲れを吹き飛ばしてくれます。



ホールの皆様共々、ご苦労様です！



# 5月19日(木)第1報

こんな爽やかな風が吹くのは、初めてである。

昨日の続きで4軒目に、約半数が取り掛かり、他の一軒は、隣りの大きな倉庫に山積みされたビニールやプラスチック製の廃棄物をピストン搬送する。

昨日の猛暑とは打って変わって、薄曇りで風が吹く。

倉庫の家主のご婦人が「女性の皆さんも、どうぞ、我が家のトイレをお使い下さい！」と、水洗トイレを案内してくれた。

それらの設備を失った倒壊家屋の多い作業現場で、7日ぶりに、「曇り、風」の自然と「水洗トイレ」と言う環境に恵まれた。

午後からの作業も、随分、はかどるものと、被災者の方と共に願っています。



# 5月19日(木) 第2報

今朝の第一報の通り、重なる好条件によって、2軒の処理を見事に完了させた。炎天下で無風の昨日より、疲れも、ほんの少し、少ない。

天皇陛下が見えられ、当地には、ご訪問が無さそうですが、作業する我々にも、元気を授けて下さったようです。

これから南阿蘇グリーン道路を帰ります。  
みんな、ありがとう！



# 5月20日(金)第1報

「西の丸の母さんが一行を送り出す」

出発してから10日目になります。

ホテルから阿蘇の山々が雄大に見え、  
時には、白い煙をもくもくと噴き  
上げて、元気な様を誇示して見せる。

恒例と成了た朝のラジオ体操を終  
えたら一行は支援現場に向かう。

その一行の無事を願って出て行く各車両に手を振って、  
西の丸の母さん（車椅子の会長夫人）が満面の笑顔で手  
を振って見送りをしてくれる。



ありがとう！今日も1日、みんなで頑張って活動します。



# 5月20日(金)第2報

## 藤江さんの责任感

毎日の酷使で、太い角材や丸太を切斷するチェーンソーが切れなくなつた。

刃の取り替えで近辺を探したが需要の多さで、どこにもない。用具責任者の藤江さんが、夕食も取らずに延岡へ直行、ホテルに戻り着いたのが11時前である。



心配顔で迎えた会長の「すまんかったなー。直ぐ風呂に入つて、それから夕食にしてくれ…部屋に準備してあるから。本当に、疲れたやろ!!ごめん、な!」いつも、厳しい会長が、駐車場で帰り着くのを待ってくれた…

藤江さんの心に「頑張って、良かった!」が、走つた。



# 5月20日(金)第3報

「2日はかかる!」と、言われた今朝からの現場をほぼ午前中に終え、午後からは、いつ何時、倒れてもおかしくない倉庫周辺から出た廃棄物の処理である。

借りたダンプに自社の三台トラックをフル稼働させ、見る見る、キレイさっぱりに変えて行く!凄く効率の良い連携活動である。

昨日、今日と、どこにも、ボランティアの姿は無いが、腰の曲がったお年寄りの被災された方が、細々と家の周りを片付けておられる。今日は、快晴ながら、いつも風が吹いてくれる。…と、ボランティアセンターから電話着信!「明日も隣りの倒壊倉庫をお願いします!」不幸な山村に解体、切断のチェーンソー音が無残に響く!我々も頑張りますから、村の皆さんも、どうか、元気を出して下さい!



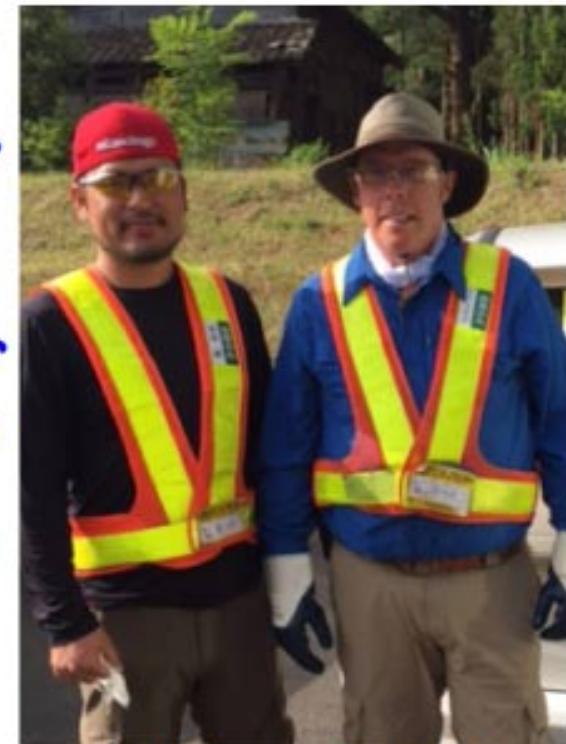
# 5月21日(土)第1報

## アメリカ、ユタ州からの活動応援

会長の長女「社長の姉さん」夫妻と、その息子、「タイラー郷」さんも一行に加わり、中でも巨体、ジムさんの怪力は凄い！

解体現場には、大きな石やブロックの固まりなど、ダンプへの積み下ろしが大変だが、怪力ジムさんなら、軽々と抱えてくれる。

20名の「西の丸一行」の今回は、国際色豊かなメンバーで頑張っています。



郷さん ジムさん

当初から今日まで精魂込めて力の限り頑張ってくれた5人の精銳が、交代して帰られる。都甲さん、藤江さん、藤川さん川井田さんは、業務の都合で、また、「タイラ、郷」さんは日程の都合でアメリカに帰ります。

5人の活躍は凄かった。

それぞれ「最後まで、やらせて下さい！」と、懇願されるが、先日雨で休みの16日に各店を回ったら、「私も是非参加させて下さい！」が、本社や各店におられ、調整、厳選の結果である。

今朝からは、快晴、無風の中ではあるが、倒壊したお宮の参道両脇に大きな杉林があり、真昼でも、ありがたい日陰をくれる。

昼食も休憩も初日以来、最高の場所で西原村最大農園の上田農園様からは、全車の駐車や水洗トイレの使用も快諾頂いた。

作業は相変わらず大変だが、頑張れる条件は、万端である。



# 5月21日(土)第2報

今日は土曜日だけあって、活動にも、岐阜県議会議員「同県ボランティアセンター理事長」川上哲也様や愛知県ボランティアセンター理事長の久田光政様ご一行と合同の活動になった。以前は牛小屋だった倒壊家屋だけに、わらも多いが、解体ブロックや瓦も多い。ボランティアセンター経由の皆さんには、3時半で終了だが、我々には、作業のケジメがある。処理場門限の5時前に、廃棄物満載のトラックが滑り込む。

今日はかなり遅くまで、掛かりそうだ。一行仲間達の頑張りに、我ながら感動します。本当に、ご苦労様です！

明日の日曜日は、現地に各方面からのボランティアが多く参加されることから、週休とさせて頂き、明後日から最後「27日」までの英気を養います。

なお、都甲さん、藤江さん、藤川さん、川井田さんが今日まで大変な頑張りを頂いたが、新メンバーと交代して帰られます。



亀長さん



郷さん

郷さんに代わって亀長さんが新メンバーとして参加！

# 5月23日(月)第1報

今日は、快晴の上、無風で、作業現場は30℃になるらしい。

只、休養日明けなので、体力、元気は万端であり、出番待機の「怪力」が顔を連ねて、「さあっ! ガンバル!」が、みなぎっている。

今朝は、一昨日、やり終えなかった牛小屋解体後のがれき処分から始めます。

今日からは、下記の新メンバーが参加され、皆さんの朝礼時(8時半頃)には、奮闘を開始しています。

田主丸店、本社の皆様からの激励、寄せ書きも、追加して届き、一層の元気を頂きました。

最後まで、力の限り、頑張り続けます。



新メンバー  
甲斐店長



新メンバー  
濱砂CA



新メンバー  
小田さん



再参加  
甲斐さん



# 5月23日(月)第2報

処理場の作業時間に合わせて、昼食を取る。

食事会場は例によつて杉林の参道である。

快晴、無風の真昼は、どこにも日陰は無いが、この参道だけは別格である。

現場では、黙々と作業を続けるが、村端の参道では、幾分、会話も弾む。休日で帰社したら、お客様から、激励の赤飯まで頂いた。

昼食の弁当の上に、赤飯が乗つて元気を呉れる。

我々の活動には、お客様や社員の皆様から頂く「元気の元」が、いっぱい、凄く、ありがたい。

炎天下の午後も、懸命に頑張ります!



# 5月23日(月)第3報

雲一つ無い極上の快晴!炎天下で午後の作業は続く。  
暑いから!とても暑いから、誰もが水道の蛇口に頭を突っ込む!ほんのささやかな冷やしだが、頭上からは、これしか無い。無風の中で、ホコリにまみれて、黙々と分別をする。



それらを車に積み込み、4-5台で処理場にピストンする。ひたすら、黙々と進める支援活動が、此処にある。



# 5月24日(火)第1報

## 『体力の極限に挑む!』

4人が入れ替わった。

23日の活動は、毎日が懸命だが、無風で炎天下の1日は、全員がクタクタに成ったが、誰一人、言葉にも表情にも出さない。他に誰一人も居ない作業現場であっても、全員に、そんなマナーが浸透している。社長には、11日出発以来、1日の休養日すらないが、その黙々と進める作業姿が全員の心に焼き付いている。凄い!!こんな精銳達の活動現場は、本社から2時間半で視察が出来る。地震がもたらした全壊、半壊だらけの現状と、其処に毅然と立ち向かう我が社の精銳支援チームの、半月近くに及ぼす活動振りは、**如何なるセミナーにもまさる凄い教訓が在る!**

私には、毎日、どの現場でも、そんな感動が尽きません!

森下さんは誰よりも弱体であるが、「根性だけのカンフル剤」でもっている。ホテルに帰った後が心配で、部屋から食堂への道中は、敢えて、家内の車椅子を押させる。

これ以上、倒れたら、皆さんの食事が不味くなる。頑強な精銳男性ですら、心臓を覗けば、気の毒な状態だと思うが、ひと寝入りして、また、今日も、現場に「帰って」來ました。



今朝は、曇り空、元気を出して、頑張ります。



# 5月24日(火)第2報

雨が近づく曇天、無風での作業は、昨日のように炎天下では無いから作業ははかどり、解体され、山積みされた残骸は見る見る内に、積み込まれ、リレー搬送される。

この分だと、今日の現場が完了するまで、雨は降りそうにない。

参道での昼食後、渡邊主任が意気込む。



被災者が同姓の「渡辺」様の現場に集中致します。



# 5月24日(火)第3報

「今日の現場も、完了！」

菊池様宅も、ほぼ完了して、  
宮山神社の参道近くに集合し  
たら、15日と同様に、小雨が  
降ってきた。

こんな活動の我々に、天は  
少し、気遣ってくれている。

曇天の今日も、作業の量  
は変わらないが、疲れは昨日程ではない。

しかしグリーンロードを帰る皆さんは、一様に無口  
に成っている。

心からの「お疲れ様！」を送ります。

みんな、みんな、ありがとう！



# 5月25日(水)

## 「無念の離村！」

今日、明日とボランティアセンターから「活動中止！」が発表された。それだけなら、我々は現地に赴くが、廃棄物処理場も「クローズ！」を知らされた。

我々の一行が昨日まで、宮山地区一帯の解体家屋の廃棄物全てを、分別から、5台のダンプやトラックへの積み込み、処理場への搬送を、ほぼ終え、「させていただく！」区切りが、少し見えた所だった。

「今日からは、西原村の他地区？」と思った矢先の「早朝通告」である。離村を決断して、別れを告げた。初日から支援させて頂いた「大久保様」は、電話の先で泣いておられた。

我々一同も、先が見えない復興を思うと、「後ろ髪を引かれる！」念でいっぱいである。

長期滞在で、大変な気遣いを下さったホテルの支配人は、「熊本県を代表して、心から、厚く御礼申し上げます！」と、感動の挨拶を述べられた。



我々に活動への激励を下さった、お客様や、社員の皆様に、心から、感謝を申し上げます。誠に、ありがとうございました。



## 西の丸グループ



